

聞いたことのない方

ローマ人への手紙 10章 9-15節

はじめに

アドベント第二週になりました。確実にクリスマスが近づいてきます。クリスマスは、一年の中で最も人々の心が教会に開かれる時です。普段は教会に関心がない人も、しばらく教会から離れている人も、「クリスマスぐらいは教会に行ってみようか」と思うものです。また私たちにとっても、クリスマスは家族や知人を教会に誘いやすい機会です。「クリスマスぐらいは教会に行ってみない？」と比較的無理なく誘えるものです。クリスマスというのは、自然と人々の頑なな心を溶かしてくれるものです。12/22（日）のクリスマス礼拝は、伝道の良い機会としたいと願っています。クリスマスカードも地域に配布しています。オレンジカフェや子ども食堂でも、クリスマスカードを配布します。このクリスマス礼拝で、一人でも多くの方が、イエス・キリストの福音に触れることができるようにと願っています。

イエス・キリストの福音を人々に宣べ伝え、人々を救いに導くことを「伝道」と言います。そもそも私たちは、なぜ伝道をするのでしょうか。「教会」という組織の維持や拡大のためでしょうか。そうではありません。伝道は、イエス様の命令であり、イエス様の願いであるからです。イエス様は、こう言われました。「**全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます**」(マルコ 16:15-16)。伝道は決して、教会という組織の維持や拡大のためではありません。そうではなく、人々を罪から救うためです。そのために私たちは、十字架に架かり復活されたイエス様を宣べ伝えるのです。伝道は決して教会の利益のために行うものではありません。そういう伝道は決して祝福されないでしょう。伝道は、神様に対する、またイエス様に対する愛から湧き上がるものでなければなりません。また隣人に対する愛から湧き上がるものでなければなりません。そうでなければ、私たちが語る福音に「聖霊の力」は働かないでしょう。

1. どうしたら救われるのか

今日の聖書箇所 9-10節には、こうあります。「**もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせた**と信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるからです」。ここには、人がどうしたら救われるのかが端的に書かれています。伝道は、人々を救いに導くことだと先ほど言いました。伝道について考える上で、まず覚えておかなければならないことは、人は救われなければならない存在であるということです。

聖書によれば、私たち人間は、天地を造られた唯一の真の神様によって造られました。そして私たちは、その神様との交わりに生きる存在として造られました。しかし、最初に造られたアダムとエバが、神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、私たち人間は神様との交わりを失いました。神様との交わりを失った私たち人間は、罪の性質を持つようになりました。罪の性質とは、神様を認めないことであり、自己中心に生きることです。この罪によって、全人類の愛が冷え、皆が自己中心となり、あらゆる悲しみや苦しみが世界と私たち一人ひとりの人生にもたらされることになったと聖書は教えています。私たちが人生で見聞きし、経験するすべての悲しみと苦しみの原因は、私たち人間が神様との交わりを失ったことにある、また私たち一人ひとりが持っている罪の性質が原因であると聖書は教えているのです。

そして神様は、私たち人間の罪に対して怒っている、そしてやがて永遠の刑罰をもってさばかれるとも教えています。私たち人間は、生まれながらに神様の怒りの下にあるのです。誰でも救われなければ、自らの罪の性質によって悲しみと苦しみを経験し続け、やがて神様による永遠の地獄の刑罰によってさばかれることになるのです。人は誰でも、救われる必要があるのです。自らの罪と、神様の怒りとさばきから救われる必要があるのです。

では、どうしたら私たち人間は救われるのでしょうか？どうしたら私たちは、自らの罪と、神様の怒りとさばきから救われるのでしょうか？それは 9 節によれば、イエス様を「主」と告白し、神様はイエス様を死者の中からよみがえらせたと信じることです。

神様は、私たちの罪に対して怒っておられますが、同時に私たちを愛してくださっています。その愛のゆえに、神様のひとり子であるイエス様をこの世に遣わし、私たちの代わりにイエス様にご自身の怒りをぶつけ、イエス様をさばかれました。それが、イエス様の十字架の死の意味です。イエス様は、私たちの身代わりに十字架で死なれたのです。本来なら、私たちが十字架につけられ、血を流し、神様の怒りをぶつけられ、さばかれなければなりません。それぐらい私たち一人ひとりの罪は、神様の御前に重いものなのです。私たち一人ひとりの罪は、神の子のいのちでしか償えないほど、非常に重いものなのです。神様は、正義と愛を併せ持つ方です。神様は、ご自身の正義と愛の両方を満たすためには、ご自身のひとり子イエス様を十字架につけるほかなかったのです。しかし神様は、イエス様を十字架の死からよみがえらせました。そうしてイエス様こそ、ただの人間ではなく、罪のない真の神であることを示されたのです。

では、イエス様が十字架で死なれたことで、すべての人間が自動的に救われるのでしょうか。そうではありません。救われるには、条件があるのです。それは、今日の聖書箇所にあるように、自分の口でイエス様を「主」と告白し、神様はイエス様を死者の中からよみがえらせたことと心で信じることです。つまりイエス様こそ、唯一の真の神様であると告白し、神様の力を信じることです。イエス様を信じ、告白すること、それが救われるための唯一の条件です。「信じる」というのは、「認識すること」だけでなく、「信頼すること」です。唯一の真の神様であるイエス様こそ、私たちを、罪と神様の怒りとさばきから救ってくださる唯一

の方として、信賴することです。そして心の中で信じるだけでなく、自分の口で告白することです。「イエス様、あなたを信じ、あなたに委ねます」とイエス様に一言祈ることです。

イエス様を信じれば、どんな人でも救われます。しかし同時に、イエス様を信じなければ、どんな人でも救われません。イエス様を信じなければ、自らの罪の性質によって悲しみと苦しみを経験し続け、やがて神様による永遠の地獄の刑罰によってさばかれることになるのです。これは、聖書が語る厳粛な事実です。私たちには二つの道しかないのです。イエス様を信じて救われるか、それともイエス様を信じないで救われないかの二つの道です。

2. 宣べ伝える人がいなければ

救いの道は一つしかありません。それは福音を聞いて、イエス様を信じ告白することです。しかし 14 節にはこうあります。「**信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。**」

人が救われるためには、聖書が語る福音を聞く必要があります。神様がおられること、自分が罪人であり、イエス様を信じなければ、罪がもたらす悲しみと苦しみを経験し続け、神様の怒りと永遠の地獄の刑罰を受けなければならないこと、イエス様は私たちのために十字架で死によみがえられたこと、イエス様こそ唯一の真の神様であり、私たちの救い主であること、これらを信じ告白するならどんな人でも救われること、この福音を聞く必要があります。聞かなければ、信じるか信じないかを選ぶこともできません。信じるためには、まず福音を聞く必要があります。

そして福音を聞くためには、福音を伝える人がいなければなりません。すでに福音を知っている私たちが、福音を伝えなければ、誰も福音を聞くことができません。すでに福音を知っている私たちが、福音を伝えなければ、誰もイエス様を信じることができません。そして誰も救われません。私たちが福音を伝えなければ、人々は福音を聞くことも、信じるか信じないかを選ぶこともできないのです。

私は高校三年生の時に、福音を人々に宣べ伝える「伝道者」になる決心をしました。進路の導きを求めている頃、クリスチャンのキャンプに参加しました。そこで大きな世界地図を見せられ、それにはどの地域にどれくらいのクリスチャンがいるのかが分かるクリスチャン人口の分布図でした。その地図を見ると、クリスチャンがほとんどいない地域、福音が届いていない地域が、世界にはまだ沢山あることが分かりました。その時私は、世界には福音を一度も聞いたことがない人々がまだ沢山いることを知りました。そしてメッセージの中で、神様は福音を伝える働き人を求めておられるという話を聞きました。そして旧約聖書のエレミヤ書の言葉、「**まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ**」(エレミヤ 1:7)という言葉が心に響いて、自分は神様から伝道者となるように召されていると確信して、伝道者としての道を歩み始めたのです。それから今年で三十年が経ちました。この三十年間、神様は私を様々な訓練してくださいました。

伝道者としての道を歩み始めて三十年の節目に思うことは、私が神様から与えられた人生の使命は、福音をまだ一度も聞いたことのない人に福音を伝えることだということです。そのために人生を献げ、そのために人生を使い尽くすということです。

この教会から徒歩 10 分圏内（600m）には、約二万人の人が住んでいます。しかし、そのほとんどの人は、福音を一度も聞いたことがないでしょう。私たちの教会はなぜこの地域に立てられたのでしょうか。それはこの二万人の人に福音を伝えるためではないでしょうか。その人たちが福音を信じるか信じないかは分かりません。しかし信じるか信じないかを選ぶ機会を提供しなければなりません。それは、私たちの役割です。私たちが伝えなければ、その人たちは福音を一度も聞くこともなく生涯を閉じるかもしれません。私たちは、イエス様がパウロに語った言葉を心に留めたいと思うのです。「**恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたをともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから**」(使徒 18:9-10)。私たちの地域にも、この二万人の中にも救われるべき人がまだいるのではないのでしょうか。神様が選ばれた人がまだいるのではないのでしょうか。

3. 私たちの伝道

私たちの伝道には、「教会としての伝道」と「個人としての伝道」があるように思います。「教会としての伝道」は、教会周辺の地域への伝道で、教会の伝道計画に従って伝道していきます。「個人としての伝道」は、自分の家族、知人・友人への伝道です。では、私たちはどのように伝道したらよいのでしょうか？

それは、第一に「祈ること」です。伝道は祈ることから始まります。皆さんは今、誰かの救いのために祈っているのでしょうか。もし誰の救いも祈っていないとしたら、誰か一人でもよいので、誰かの救いのために祈り始めましょう。五人も十人も祈る必要はないかもしれません。誰か一人の救いのために、その人が救われるまで祈り続けてみたらどうでしょうか。最も大切な人の救いから祈り始めましょう。まず家族から祈り始めましょう。そして、知人・友人へと広げていきましょう。

第二に、「誠実に生きること」です。誠実に生きていれば、必ず人から信頼されます。信頼されれば、いざという時に頼りにされ、相談されることもあるでしょう。その時に愛をもって接するのです。伝道は「口」で福音を語るだけではありません。「耳」を使って人の話を熱心に聞くことも伝道です。「目」を使って人を優しい眼差しで包むことも伝道です。「心」を使って人のありのままを受け入れることも伝道です。現代は、宗教に対して警戒心の強い時代です。しかし信頼できる人、誠実な人の話には、人々は耳を傾けるものです。人々は、一方的な伝道に嫌悪感を示します。誠実さのない伝道に人々は嫌悪感を持つのです。

第三に、「正直に生きること」です。嘘をつかず、隠さず、自分を大きく見せようともせず、自分の弱さを正直に見せることです。間違ったことをしたら、自分の誤りを素直に認め、正直に謝ることで。そのような二面性のない、裏表のない姿に、人は信頼するでしょう。

私たちは、よく祈り、とにかく誠実に正直に人と接することです。そのような毎日の積み重ねが信頼を勝ち取り、福音を証しする機会を整えてくれるのです。私たちは、誠実さのない伝道をしてはなりません。それは逆効果であり、人々をつまずかせ、人々を福音から遠ざけます。イエス様は言われました。「**あなたがたは地の塩です。…あなたがたは世の光です。…あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです**」(マタイ 5:13-16)。

おわりに

私たちは誰でも、救われなければならない存在です。神様は、イエス様をこの世に遣わし、私たちのために救いの道を用意してくださいました。人はイエス様を信じ告白すれば、誰でも救われます。しかしイエス様を信じるためには、福音を聞かなければなりません。福音を聞くためには、福音を伝えなければなりません。私たちの教会には、この地域の二万人の人々に福音を伝える責任があります。福音を一度も聞いたことのない人々に、福音を伝えなければなりません。神様はこの地域に、救われるべき人々をまだ用意して下さっているのではないのでしょうか。私たち一人ひとは、人々の救いを祈りつつ、誠実に正直に生きて、地の塩・世の光として歩んでいかなければなりません。イエス様は、必ず福音を証しする機会を与えてくださるはずです。

天におられる父なる神様。

あなたは私たちを愛してくださいました。そのためにイエス様をこの世に遣わして、私たちに救いの道を用意してくださいました。そしてイエス様を信じ告白すれば、誰でも救われると約束してくださいました。

しかし現代の多くの人々は、福音を一度も聞いたことがありません。信じるか信じないかを選ぶ機会さえない多くの方がいます。イエス様あなたは、私たちに福音を宣べ伝えることを求めておられます。どうか私たちの教会が、この地域に住む二万人の人々に福音を余すことなく宣べ伝えることができるように力づけてください。

また私たち一人ひとりが、福音を証しできるように力づけてください。人々の救いを祈り、誠実に正直に生きて、地の塩、世の光として歩ませてください。そして人々からの信頼を勝ち取り、福音を証しする機会を与えてください。

今年のクリスマスが、人々に福音を宣べ伝える良い機会となりますように。

この祈りを救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。